

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
15008	1	後期	必修	1	15
授業科目名 (英文)	臨床医学各論 I (感染症および寄生虫症) (Clinical Medicine I)				
担当教員名	石原 照夫				
授業の概要及び到達目標					
<p>【授業の概要】 感染症の総論（微生物の病原性、感染の成立と防御機構、感染症の分類、感染症の医療体制）と各論として頻度の高い感染症についての基礎的な知識（病原微生物の種類、感染経路、流行地域、特徴的な症状、治療法、予防法等）を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 感染症の概念、頻度の多い感染症について感染経路、予防・管理・治療についての基礎的な知識を習得し、実臨床における感染症診療の内容および診療録の内容を理解できるようになる。</p>					
準備学習等					
<p>教科書および参考図書、インターネットを活用して予習を行う。疾患名のみ記載されている項目については感染経路、予防・管理・治療の概略を予習。（ ）内はテキスト頁数。</p> <p>第1回：(p. 197 -206) 病原微生物の種類とヒトへの感染経路にはどのようなものがあるか、感染症新法での感染症類型は、輸入感染症とはどのようなものか。</p> <p>第2回：(p. 205-07, p. 211-12) 結核菌の感染経路とその予防法について。「結核菌感染」と「発病」の違いは何か。潜在性結核感染症とはどのような状態か。</p> <p>第3回：(p. 210-18) 人畜共通感染症とは何か、破傷風とはどのような感染症か。</p> <p>第4回：(p. 219-31) わが国の性感染症で最も多いのは何か。クラミジア、リケッチアとはどのような微生物か。</p> <p>第5回：(p. 231-38) プリオン病の病原体は何か、遅発性ウイルス感染症とはどのような感染症か。日本脳炎の最近の流行状況はどのようなになっているか。</p> <p>第6回：(p. 238-41, p. 248-50) 節足動物媒介ウイルス性疾患にはどのようなものがあるか。水痘と帯状疱疹の違いは何か</p> <p>第7回：(p. 243-52, p. 256-57) ウイルス性肝炎の種類とその感染経路をどのようにしているか、HIV 感染症の世界およびわが国の流行状況はどうなっているか、日和見感染症とは何か。</p> <p>第8回：(p. 253-56, p. 258-62) マラリアの流行地域はどこか、疥癬とはどのような感染症か</p> <p>・講義終了後は、講義で学習した知識を再確認するために、診療情報管理士教育問題集基礎医学編を用いて学習すると同時に、講義の中で関心を持った事項について、参考図書等を利用して、知識を深める。この科目の単位認定を受けるためには、教室内の授業時間の他に、計 30 時間の予習・復習が必要である。</p>					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験受験資格：出席 6 回以上。20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・毎回、講義内容のミニテスト（20 点満点）を施行（出席票を兼ねる）。 ・定期試験 80%+ミニテスト（8 回分の平均点）20%で評価する。 				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本病院会診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I 基礎・医学編」第 8 版 第 4 章(197～262 頁)(2016 年 7 月 20 日 (社)日本病院会発行) ・診療情報管理士教育問題集 基礎医学編(2013 年) 				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「体の仕組みと働き」で使用した教科書、参考書。 ・国立感染症研究所のHP (http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a.html)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の受講には解剖生理学を理解していることが前提となる。「体の仕組みと働きⅠ、Ⅱ」を受講し、常に参考としていることが望ましい。 ・毎回、講義内容+αのプリントを配布する。講義では、全てについて詳しくは説明しないが、関心をもった点については、プリント内容を参考にしながら、復習をすること。 ・各回で施行するミニテストの解答、多かった誤り、補足説明等は、次回の講義の冒頭でフィードバックするので、理解を深めてほしい。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図を確認してください。 ・オフィスアワー：水・金曜日 13:00-17:00 (要支援システムで確認)
授 業 計 画	
<p>感染症総論および下記に示す個別の感染症については①病原体についての基礎的な知識、②流行地域、③感染経路、④潜伏期間、⑤病態、⑥症状、⑦治療法と予防法を中心に講義する。</p> <p>第1回：(p. 197 -206) 感染症総論と腸管感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症総論：感染症の定義、病原微生物の種類、感染症の診断方法、新興再興感染症・輸入感染症、感染症新法と感染症類型について ・コレラ、腸チフス・パラチフス、非チフス性サルモネラ症、細菌性赤痢、細菌性食中毒症、腸アメーバ症・腸外アメーバ症、ウイルス性下痢症について①～⑦の項目。 <p>第2回：(p. 207-09, p. 213-14) 抗酸菌感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結核、非結核性抗酸菌症、ハンセン病について①～⑦の項目。 <p>第3回：(p. 210-18) 人畜共通感染症、その他の細菌感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペスト、野兔病、炭疽、ブルセラ症、レプトスピラ症、リステリア症、破傷風、ジフテリア、百日咳、溶連菌感染症、流行性脳脊髄膜炎について①～⑦の項目。 <p>第4回：(p. 219-31) その他細菌感染症、性感染症、リケッチア（概論）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放線菌症、ガス壊疽、レジオネラ症、敗血症。性感染症、トラコーマ、ライム病、回帰熱、オウム病、クラミジア肺炎について①～⑦の項目。 <p>第5回：(p. 231-38) リケッチア、プリオン病、ウイルス感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リケッチア感染症、Q熱。急性灰白髄炎（ポリオ）、遅発性ウイルス感染症、プリオン病、狂犬病、日本脳炎、ウイルス性髄膜炎、デング熱について①～⑦の項目 <p>第6回：(p. 238-p. 243, p. 250-p. 251) ウイルス感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ナイル病、黄熱病、ラッサ熱、エボラウイルス病、単純ヘルペスウイルス感染症、水痘・帯状疱疹、サイトメガロウイルス感染症、麻疹、風疹について①～⑦の項目。 <p>第7回：(p. 243-52, p. 256-57) ウイルス感染症、日和見感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尋常性疣贅、ヒトパピローマウイルス感染症、流行性耳下腺炎、伝染性単核球症（EBV感染症）、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）ウイルス肝炎、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症、日和見感染症について①～⑦の項目 <p>第8回：(p. 253-56, p. 258-62) 真菌症、原虫疾患、寄生虫疾患について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な真菌症（皮膚糸状菌症、カンジダ症、アスペルギルス症、クリプトコッカス症、ムコール症）、輸入真菌症、マラリア、住血吸虫症、肝吸虫症、肺吸虫症、エキノコッカス症、条虫症、フィラリア（糸状虫）症、回虫症、アニサキサス症、疥癬症について①～⑦の項目。 	